

## 山梨県スポーツ振興条例案作成委員会

### 先進事例調査（神奈川県議会）概要

日 時 令和2年11月12日（木）午後1時00分～2時00分

場 所 神奈川県議会 大会議室

#### 調査者

委員長 遠藤 浩  
副委員長 古屋雅夫  
委員 皆川 巖 桜本広樹 渡辺淳也 市川正末 鷹野一雄  
大久保俊雄 望月利樹

#### 欠席者

委員 飯島 修

#### 対応者

神奈川県スポーツ局スポーツ課  
桜井副課長 粟野グループリーダー 長谷川副主幹

調査事項 1 神奈川県スポーツ推進条例について

#### ○ 質問・意見交換について

問) アスリートの育成、各種イベント、競技場等の建設という中で、公のお金だけでは賄えない部分もあると思う。企業とタイアップして資金を得たり、民間資金の活用という部分で何か施策はあるか。

答) 神奈川県スポーツ推進計画「エンジョイ・スポーツ! かながわプラン」推進事業一覧の1番に親子ふれあい体操を入れている。リーフレットを作成して2種類ある。1歳6カ月から2歳編、そして3歳から6歳編、これを12万部くらい刷っている。

市町村で3歳児健診が行われるが、その場で全員に配れるように考えている。

かなりのお金がかかるが、県民共済から全額お金をいただいて、リーフレットを配っている。協賛というパターンがかなり多い。

スポーツ推進計画の54番であるが、横浜ランドマークタワーという69階の建物がある。ふだんは階段を登っていくことはできなくて、エレベーターでしか上がれないが、特別に開放し、階段を登る機会をつくって参加してもらっている。県費は一銭も入っていない。全て協賛、あと参加料を取っているが、参加費と協賛のお金で賄っている。

あと、先ほど出た県民スポーツ月間というものがある。10月1日から10月30日ということで、特別協賛で住友生命からお金をいただき、スミセイバイタリティアクションというものがある。スポーツ教室を開くことがあり、このときには、タイアップしながら、我々もスポーツ教室を開催している。住友生命は、有名な方を呼べるので、このときは元女子バレー日本代表の栗原恵さんと呼んだ。一緒にやることで、スポーツ全体を盛り上げるようなイベントを組んでいたりしている。

問) 神奈川県というと、プロスポーツの関係で、野球のベ이스ターズを初めサッカーチームなどがあるが、企業やプロスポーツとの連携と競技場の指定管理の2点について、最後に伺いたい。

答) 県としてプロスポーツとどうかかわるのだが、個別に協定を結んで、お互いに協力しながらスポーツを振興している。特に未病という言葉で、健康増進に近いが、未病ということに取り組んでいこうとしている。例えば横浜マリノスと協定を結んだり、ラグビーで相模原にダイナボアーズというのがあるので、ダイナボアーズと協定を結んだりしている。お互いに協力しながらスポーツを推進していこうという形のものである。

プロとの連携については、これから少し考えていかなければいけない課題と考えている。本当であればプロは自分たちでお金を稼いで、自分たちで回していくというのが本来の姿だと思うので、そこに県費を投入することに理解が得られるのかということにちゅうちょがあり、なかなか手が出せなかった。これから少し考えていかなければいけないと思っている。

指定管理については、県立スポーツ施設にはない。一番大きい施設はスポーツ推進計画の100番のスポーツセンターである。今年の4

月にできた。PFIでつくっているが、運営はほぼ直営でやられている。指定管理は入れていない。ただ、平塚市にはベルマーレがある。はっきりと覚えていないが、市町村ではあるかもしれない。

問) いろいろな事業で民間の資金や活力を活用するというので、他県の条例を見ている中で、財政措置という条文を神奈川県はあえて入れていない。多くのところが行政サイドの財政措置を入れているが、あえてその条文を入れなかった。その部分を教えていただければと思う。

答) 我々として例えばどこかの団体に対して、財政的な出動をするということには行っていない。

ただ、県の体育協会、今はスポーツ協会と言われているが、そこと協働しながら、負担金を払って国体への派遣、国体選手の強化事業をやったりすることはある。団体に対しての補助金は、財政が悪化したときに、見直したので、他県では、総合型スポーツクラブや地域スポーツクラブにお金を出しているようなところもあるみたいだが、我々はするつもりはないし、これからはないということで入れていないと思っている。

問) 条例第4条の2「県の責務」の中で、県の責務の第4条の2に地域におけるスポーツ推進ということと、あわせてスポーツ推進計画の中でも、35、36ページにスポーツ活動、環境整備というところがある。A3版の視点の2の中にもスポーツ活動の環境整備ということで、地域コミュニティを中心とした総合型スポーツクラブの質的充実とある。当然、各市町村に総合型スポーツクラブがあるわけで、地元の場合は、広範囲にかかわる子供たちがいたりする。競技力が上がってくると、施設が伴っていないという状況がある。その後、充実したものにステップアップするには、県として何か支援が必要であると私は思うが、先進事例で何かあるか。

答) この計画、条例は平成28年につくったということで、当時、スポーツセンターの再整備を図っていて、4月に再整備が終わった。ただ4月にコロナの関係でオープンできなくて、7月にオープンした。スポーツセンターでいろいろな事業をこれからやっていかなければならないだろうということで、昨年度から検討している。その中の一つの

柱として、競技スポーツの振興を入れている。今までスポーツセンターで、競技力の向上ということはやっていなかった。本庁が体育協会と連携しながらやっていたが、もう一つの柱として、スポーツセンターということで取り組む競技力の向上というものを入れている。

スポーツ推進計画の100番のところで後で見てもらえればと思うが、スポーツセンターでの新たな取り組みを書いている。競技力向上とアスリートの育成ということで、スポーツ医科学栄養サポート事業というものをやっていて、ある程度アスリートとしてでき上がった方々、特に18歳未満の方々を対象に、医者にも入ってもらいながら、スポーツセンターに新たな器具を入れている。負荷をかけながら走って酸素の値とかを見るトレッドミルだとか、極めて精度の高い体脂肪がはかれるものを入れているので、測定をしながら、これからどういところを伸ばしていけばいいのかということアドバイスを事業を立ち上げている。

スポーツ医科学栄養サポート事業は栄養面でもサポートするというものだが、100人いかないくらいだったと思うが、本当に対象範囲は非常に狭いものになる。県費を少し投入している。

国体に出る場合、競技団体が行う強化練習など、少し手が届かないようなところに対して、スポーツ協会を通して補助金を出す。

それとタレントを発掘していこうということで、ゴールデンエイジと言われている小学校4年生くらいの方々を対象に、1,000人くらい集めて測定をして、運動能力の高い人を50人くらい選んで、その人たちに対して5年生、6年生でいろいろなプログラムを提供して育てていくというタレント発掘育成事業を行うことになっている。

ただ、これはいずれもことしからやるつもりだったが、コロナの関係でまだできていない。

問) 一体的に知事部局に集約をしてスポーツ局をつくって、振興しているということだが、障害者と健常者を別々にスポーツ振興する部分がないにしてもあらずだと思うが、この条例をつくって以降、障害者あるいは地域の子供たちを含めて、事業を振興する上で、課題やこうしていったほうがいいというような部分があるか。障害者スポーツについては、これから力を入れていかななくてはならない課題だと思っている。かながわ憲章との関係で、特に力を入れてやっているところがあれば、伺いたい。

答) スポーツ推進計画の53ページのところに、かながわパラスポーツというのを掲げていて、高齢者、障害者、健常者、全ての人と一緒にスポーツを楽しみましょうとしている。障害者と健常者が一緒にスポーツをできる場というのを、何とかつくりたいと思う。スポーツ月間にいろいろな種目を用意して、障害者もできる種目もあったりするが、なかなか一緒にやるとなると難しい。レベルが違うし、そういう教室をやる場合に、サポートスタッフというのにも必要になってくる。障害がわかる人が必要だが、そういう方々を用意しつつ健常者も受け入れるという形になるので、難しいと感じている。

先ほど紹介したが、発掘育成は障害者の方も対象にしている。障害者の方も選手として有能そうな方はぜひ参加してもらおう。

2022年に延びたが、2021年にねんりんピックが開催される予定だった。高齢者が集まるスポーツ大会だが、我々としても「ともに生きる社会」というものを広げていきたいと思っているので、地域共生みたいなことは入ったりしている。独自の目標として、「ともに生きる社会」の実現というものをに入れて取り組んでいこうと思っている。

問) 条例第14条で、10月をスポーツ月間と定めて、さまざまな事業等を集中的に行っているという説明があったが、このスポーツ月間を定めるに当たって、ウインタースポーツ、いわゆるスキーやスケート等のスポーツについて、どのような議論があったのか。それに対する配慮や検討があれば伺いたい。

答) 私の知る限りは、そのような議論は起こらなかったと思っている。ただ、国体は当然冬季も開催し、派遣もしている。ウインタースポーツはウインタースポーツで取り組んでいくという形なのではないかと思っている。

以上